令和３年度和裁士技能検定（１級）学科試験解答

実施日：令和4年3月13日
所用時間：90分

1．次の着装に関する説明文の中で、正しいものには○、誤っているものには×を（　　）の中に記入しなさい。　（配点５点）

①（ × ）女物和服の礼装用の帯には、染物が適している。
②（ × ）男物長着の通し裏の揚げは、必ず肩山にする。
③（ × ）女物の羽織・道行コートは、室内では着用しない。
④（ × ）女物の羽織の袖丈は、着物の上に着用するので着物より長くする。
⑤（ ○ ）本裁女物長着の裾廻しが短尺物の場合、前裾布から袖口布を取る場合がある

2．下の表は和服の紋下りを記したものです。表を完成させなさい。《※鯨尺でもcmでもよい》
（配点５点）

	本　身	四ツ身	一ツ身
背紋下り （衿付けより）	5．7 cm 1 寸 5 分	（ 4．5 cm 1 寸 3 分 ）	（ 4 cm 1 寸 ）
袖紋下り （袖山より）	（ 7．5 cm 2 寸 ）	6．5 cm 1 寸 7 分	（ 6 cm 1 寸 5 分 ）
抱き紋下り （肩山より）	1 5 cm 4 寸	（ 1 3 cm 3 寸 5 分 ）	1 1 cm 2．9 ～ 3 寸

3．次の紋の名称を下記の語群から選び（　　）の中に記入しなさい。また、よみ仮名を《　　》の中に記入しなさい。　（配点１０点）

（ 剣片喰 ）（ 花　菱 ）（ 木　瓜 ）（ 橘 ）（ 桔　梗 ）
《けんかたばみ》《 はなびし 》《 もっこう 》《 たちばな 》《 ききょう 》

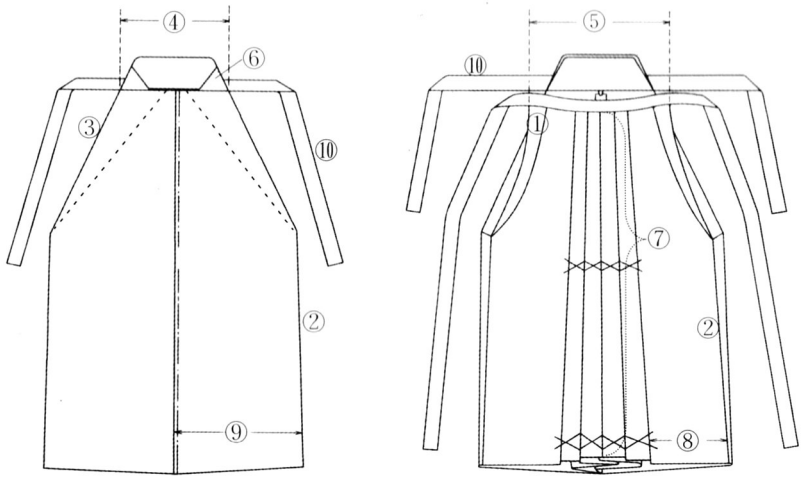
・剣片喰	・九曜星	・五三の桐	・木　瓜	・橘
・梅　鉢	・違い鷹の羽	・桔　梗	・蔦	・花　菱

4．次の説明文の（　　）の中に、適当な語句を記入しなさい。《※鯨尺でもcmでもよい》
（配点５点）

① 名古屋帯の太鼓の柄は、垂先から柄の中心まで（ 1尺8寸/68.2㎝ ）にする。
② 女袴の紐下寸法は、着丈の（ 7/10 ）が標準である。
③ 袋帯の帯丈は（ 1丈1尺/4ｍ20㎝ ）くらいである。
④ 女物千代田衿の小衿布は、道行衿コートより（ 2尺7寸～3尺/1ｍ～1.1ｍ ）くらい多く必要である。
⑤ 女物着尺で、掛衿を２本取りする場合、（ 1尺3寸2分/50㎝ ）余分にあれば出来る。

5．男物襠袴（馬乗袴）を前から見た場合と、後ろから見た場合の完成図を描き、下記部分がよくわかるよう、それぞれ所定の位置に記号を入れなさい。
（配点 図１０点/名称１０点）

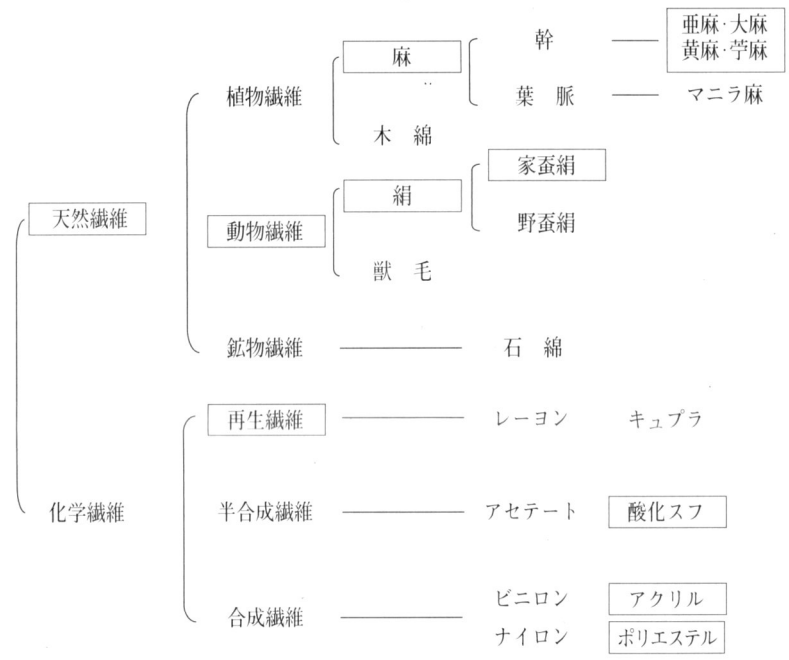
①笹ひだ　②相　引　③投　げ　④後腰幅　⑤前腰幅
⑥付　菱　⑦紐　下　⑧前脇幅　⑨後　幅　⑩後　紐



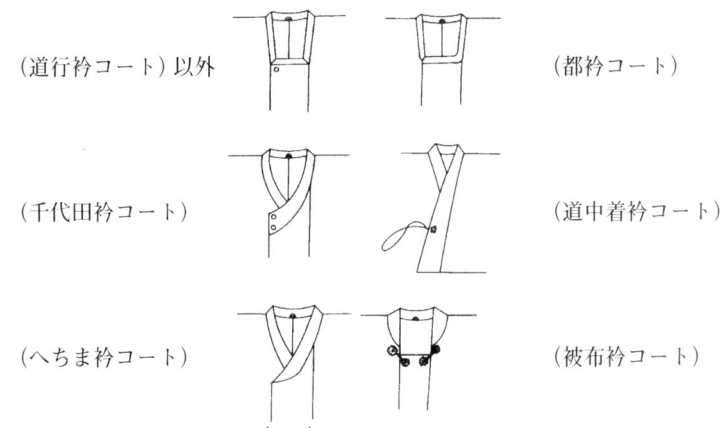
6．男物襠袴（馬乗袴）と仕舞袴の違いを５つ示しなさい　（配点１０点）

①（ 1のひだの奥が浅く、ひだのすぐ内側をとじつける ）
②（ 相引が低い ）
③（ 襠高は高い ）
④（ 腰板は木製 ）
⑤（ 後ろひだは袋ひだにせず、片ひだとする ）

7．下の表は繊維の分類を示したものです。表を完成させなさい。　（配点１０点）

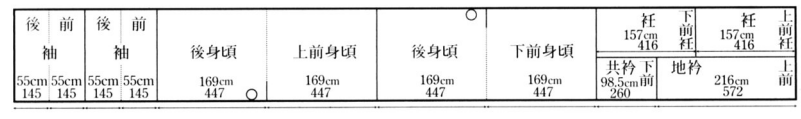


8．女物コートで道行衿以外のコートの図と衿の名称を２種類示しなさい。　（配点１０点）

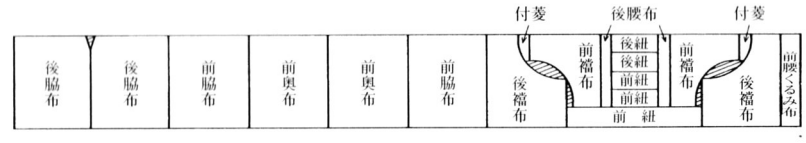


9．次の５問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を描きなさい。（裁ち切は実線、折り山等は点線で記入）　（配点各問５点）

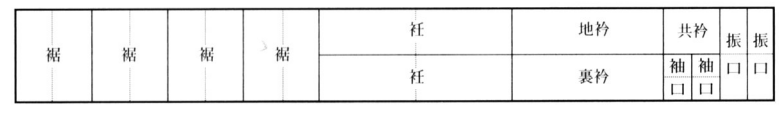
① 並幅物１２ｍ１２㎝（３丈２尺）の反物で、一ツ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちにしたい。
裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
身丈背より出来上がり１６０㎝（４尺２寸３分）・袖丈出来上がり５１.１㎝（1尺３寸５分）
繰越２.６㎝（７分）・褄下（衿下）出来上がり７９.５㎝（２尺１寸）・他は標準寸法とする。
（注）袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衽裾などの位置を明記すること。



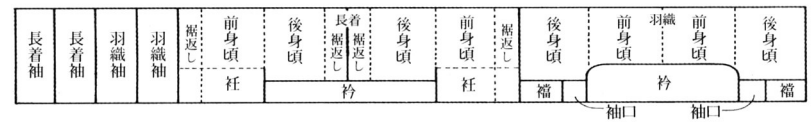
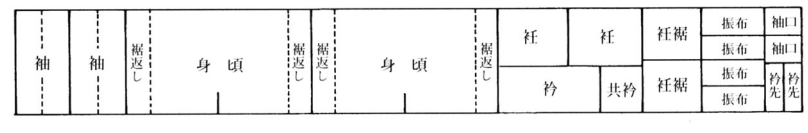
② 並幅物10.2ｍ（２丈７尺）の反物で、男物襠（馬乗り）袴を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



④ 並幅物１１.８ｍ（３丈１尺２寸）の反物で、留袖用比翼を作りたい。その裁断図を記入しなさい。ただし、袖は口・振とし、衿裏共布とする。



③ 並幅物１５.２ｍ（４丈）の反物で、四ツ身長着（共褄）と羽織を裁ちたい。
その裁断図を記入しなさい。



⑤ 並幅物１９ｍ（５丈）の反物で振袖（共八掛・振布付き）を裁ちたい。
その裁断図を記入しなさい。